

今月の

5冊



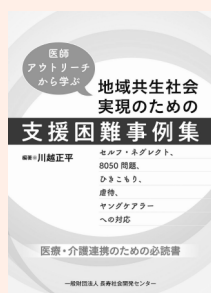
臨床現場のもやもやを解きほぐす 緩和ケア×生命倫理×社会学

森田達也、田代志門＝著
発行：医学書院
定価：2640円（本体2400円＋税10%）

答えに辿りつかない「もやもや事例」に満ちている臨床現場。緩和ケア医と生命倫理学者兼社会学者が、往復書簡を通してそんなもやもやを解きほぐす。森田が事例を提供し、緩和ケアの立場からの望ましい対応を解説すれば、田代が倫理の専門家としての経験から実践的な解を導く。よくある「もやもや事例」に新たな視点を与えてくれる。

医師アウトリーチから学ぶ 地域共生社会実現のための支援困難事例集

川越正平＝編著
発行：長寿社会開発センター
定価：3080円（本体2800円＋税10%）



医療・介護支援の拒否、認知症、ひきこもり、虐待、ヤングケアラーへの対応など、複合的な課題への支援の進め方、基本的知識とアプローチのためのノウハウを解説。さらに事例の全体像の把握の仕方、早期発見、早期介入のタイミングなどについて紹介。困難事例への対応力の強化、協働する力量の向上をめざす人の必読書。

痛みを希望に変えるコミュニティデザイン

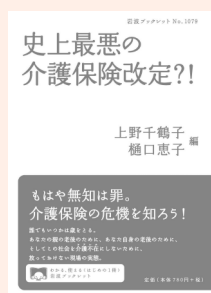
紫牟田伸子、森合音＝著
発行：筑摩書房
定価：1980円（本体1800円＋税10%）



舞台は四国こどもとおとなの医療センター。ここは思いのつまったアートにあふれている。ホスピタルアートは、医療現場で起こるさまざまな問題（痛み）を直視させ、改善（希望）に向けた対話を通じて見えない思いを形にして全員参加型の病院づくりを促す。この病院の試みはコミュニティと社会包摂の本質を伝えてくれる。

史上最悪の介護保険改定?!

上野千鶴子、樋口恵子＝編
発行：岩波書店
定価：858円（本体780円＋税10%）



介護保険の危機?! 2024年に向けた改定案には自己負担が原則2割、要介護1・2を介護保険から外す、ケアプランの有料化、福祉用具の買い取りなどの項目が並ぶ。この利用の抑制とケアの質の低下が危惧される改定案を、ケアの専門家が徹底的に批判し、現場の実情と開始以来切り崩され続けてきた介護保険の現実を報告する。

精神科医療の未来を見据えて

寺田悦子＝著
発行：幻冬舎メディアコンサルティング
定価：1760円（本体1600円＋税10%）



精神疾患を抱えた人が幸せに暮らす社会を実現するために、精神疾患を抱える人のための作業所、さらに医療と福祉の連携をめざして精神科訪問看護ステーションを開設した著者。半世紀にわたり精神科医療の現場で奮闘してきたプロセスとともに、患者本位の精神科医療とはどうあるべきかを提示する。